

資料紹介

『蔡姓家譜』について

崎原恭子・早瀬千明

Brief Notes on A Genealogical Record of Sai Clan

Kyoko SAKIHARA¹⁾, Chiaki HAYASE¹⁾

今回資料紹介する『蔡姓家譜』は、十四世紀に福建泉州府南安県から久米村に移住した蔡崇を祖先とする一族のうち、十世の蔡應祥から分岐した支流（小宗）の久米村系家譜である。家譜の総目録である『氏集首里那覇』（注1）でいうと、第十七番の二八八であり、「元祖九世國器支流二子諱應祥大田親雲上 蔡氏 安次嶺親雲上」と記されている。世系図や記録には、十世・應祥（一六五二―一七二二）から十八世・有章（一八八三―？）まで、主に近世琉球期に相当する十七、十九世紀に渡る各人の記事が掲載されている。一丁目から世系図が記され、冒頭の上部には「首里之印」が押されている。家譜に掲載した記事を王府の系図座で確認し終えたあと、各家に戻されて格護された家譜の原本であることがわかる。記録の記事は、人名を見出しにして出自や父、母、室、子が記載されるが、事績等の記載は他の久米村系家譜と同様に、官爵、勲庸、采地、俸禄、寵榮、婚嫁の順に項目が設置されており、そのなかでさらに編年体で記事を書き加えているスタイルになっている。

家譜の史料的价值については、これまで様々な場面で紹介されてきた（注2）。久米村系家譜は、特に近世琉球期の記事において、「進貢往来、福州から北京への往還、江戸上り、官生のこと、さらに著作、芸文といった文化的記録など多くの資料を提供する」などと、琉球史における史料的な価値の高さが強調されている（注3）。当家譜においても例

外ではない。蔡氏は久米村土族のなかでも、いわゆる「閩人三十六姓」から続く名門である。そのため、各人もほぼ順調に位階を上げ、師弟の教育や外交文書の作成、通事などで進貢に従事する旅役、久米村の管理職などに就いていた（注4）。また蔡應祥を含め、以降の長子は具志川間切大田を拝領する脇地頭を相続していた。嘉慶九年（一八〇四年）二月に十四世・蔡邦錦が羽地間切饒平名島をもらい、同年九月の読谷山間切渡具知村地頭職を経て小禄間切安次嶺村を拝受したのは、代々嫡子が安次嶺村の地頭職を継いでいた。

蔡氏が居住していた久米村は、ほぼ現在の那覇市久米の地域であり、中国からの渡来人が築き、琉球王国時代には独立した行政区になっていた。そこに住む人々（久米村人（クニンダンチュウ）は中国語に精通し、外交文書の作成や外交交渉を行い、中国との進貢や琉球王国の海外貿易を支えた職能集団だった。

また近世琉球期には、学問や教育も担い、中国の文化・文物の導入にも大きな役割を果たしていた。『蔡姓家譜』の記事からも、その当時の久米村が担った役目や立場が浮かび上がるため、近世琉球期の久米村における歴史像の一端を提供する貴重な資料と言える。

1) 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, Omoromachi 3-1-1, Naha-shi, Okinawa, 900-0006 Japan.

当家譜は、二一一年に大阪在住のご子孫の方より沖縄県教育庁文化財課に資料提供の相談があり、協議の結果、当館に寄贈された資料である。ただ、家譜の存在自体は以前から知られており、那覇市歴史博物館には、一九九一年にご子孫の方が提供したコピーが所蔵されている。また、糸数兼治氏の「史料紹介」嘉慶十三年辰年接封一件（注5）では、『蔡姓家譜』のうち、十四世・邦錦が携わった嘉慶十三年（一八〇八年）の尚瀬王の冊封正副使を迎接する公務に関わる記事が取り上げられている。糸数氏は、邦錦の人物情報を紹介した上で、いわゆる「辰年接封一件」に関する記事の原文や読み下し文を掲載するとともに、外交文書の内容と文書の経路を示して、公銀の貸与などが中国側とどのような文書のやり取りによって行われたのかを明らかにしている。

しかし、当家譜の内容全般が活字になって紹介されたことはこれまでなかった。そのため、『蔡姓家譜』を当館に寄贈いただいたことを契機とし、内容をすべて活字化して資料紹介をすることとした。

今回の活字化作業に当たる凡例は以下のとおりである。

- ・人名で使用されている以外の旧字体等はできる限り新字体に改めた。
- ・王国時代に記された文字は明朝体、明確に王国時代以降に追記されたと思われる文字はゴシック体として差別化した。
- ・文字の脱落と判断される場合は当該文字を「」で示して文中に挿入した。また、誤字と思われるものは右傍に「ママ」と注記した。ただし、明確に判断しうる場合は当該文字を「」で示した。
- ・各記事に押されている「系紀之印」など、印の表記は省略した。
- ・活字化にあたっては、糸数兼治氏の論考も参考にした。また、欠損等により判読できなかった文字は「」で示した。

（注1）『氏集 首里那覇』那覇市市民文化歴史博物館 二一八
年（増補改訂版）

（注2）（a）田名真之「琉球家譜の成立とその意義」『沖縄県史料編

集所紀要』第四号 沖縄県史料編集所 一九七九年

（b）田名真之「解説 久米村家譜と久米村」『那覇市史』

資料篇第一巻六 家譜資料二（上）那覇市企画部市史編集室
一九八一年

（c）田名真之「解説」『那覇市史』資料篇第一巻七 家譜資料三 那覇市企画部市史編集室 一九八二年

（d）金城正篤「沖縄の家譜について」『沖縄の家譜 歴史資料調査報告書』『沖縄県教育委員会 一九八九年

*その他、様々な文献がある。

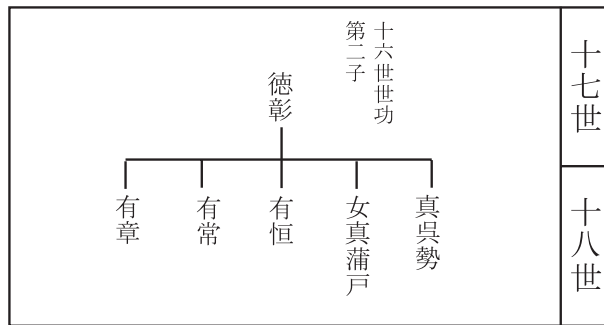
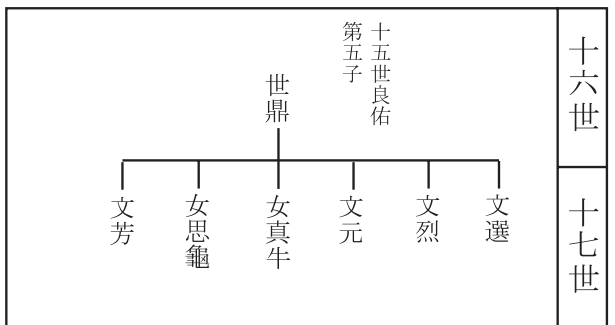
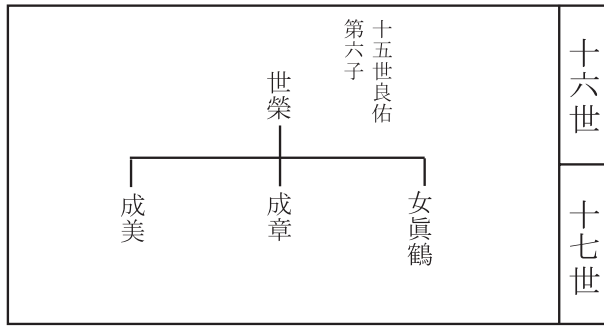
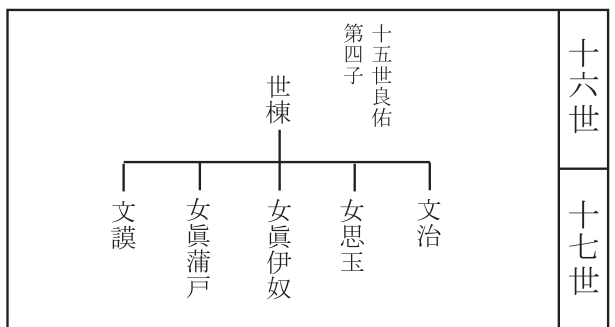
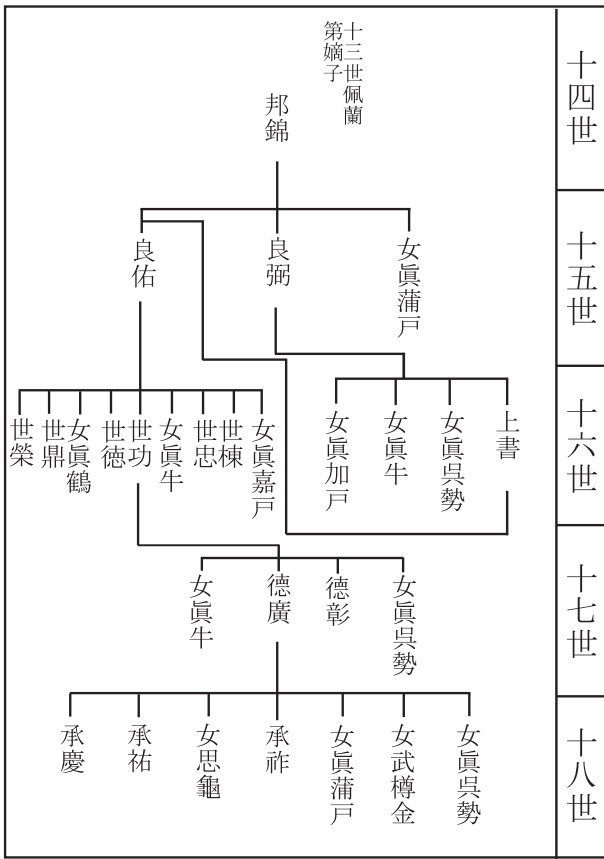
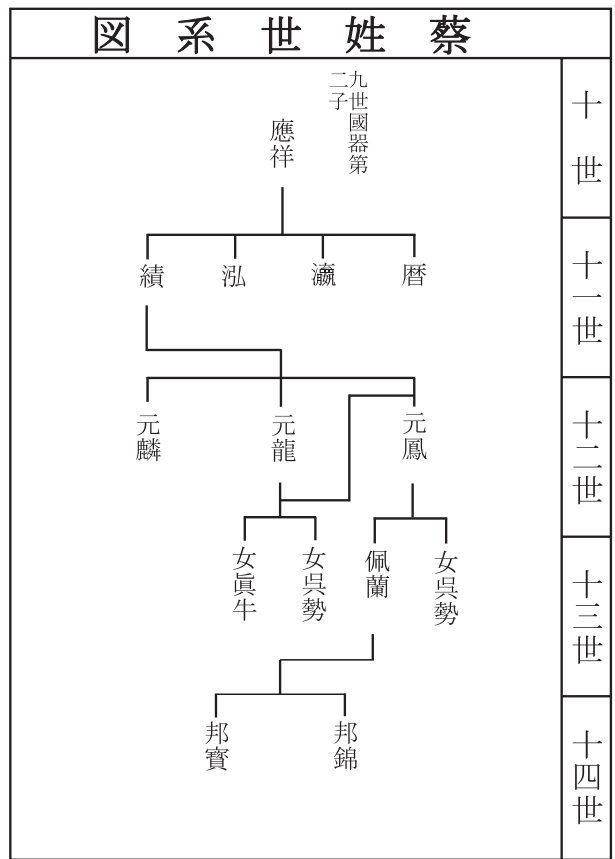
（注3）前掲 注2（b）

（注4）具志堅以徳「久米村の位階・役職」『沖縄大百科事典』沖縄

タイムス社 一九八三年

（注5）『歴代宝案研究』第八号 沖縄県教育委員会 一九九七年

蔡 姓 世 系 圖



十世諱應祥大田親雲上

童名龜壽字雲臣号景亭行二順治九年壬辰十一月十五日寅時生康熙五

十一年壬辰三月二十四日亥時卒享年六十一歲官終於正議大夫二十六日葬於南京墓伝家於長孫元龍

父國器

母蔡氏慕達路

室梁氏眞吳勢諱威心字妙光順治十年癸巳二月十日生雍正六年戊申十一

月初三日戌時卒享年七十六歲次日葬南京墓

長男瀛

二男泓

三男童名百歲諱曆康熙十六年丁巳三月十四日午時生二十五年丙寅年十

歲出為正議大夫曾襲砂邊親雲上義子

四男績

官爵

康熙元年壬寅十二月二十八日年十一歲為于和部

康熙五年丙午四月二十三日年十五歲作秀才

康熙五年七月初八日元服

康熙八年己酉十月十八日年十八歲為筑登之座敷

康熙九年庚戌十二月二十二日年十九歲陞通事

康熙十五年丙辰五月十五日年二十五歲頂戴黃冠

康熙二十八年己巳十一月初一日年三十八歲為遠達理位

康熙三十年辛未十二月初一日年四十歲為座敷

康熙三十一年壬申十二月初一日年四十一歲陞中議大夫

康熙四十一年壬午二月初一日年五十一歲陞正議大夫

康熙四十四年乙酉十二月初一日年五十四歲為申口座

勲庸

康熙十七年戊午三月十一日年二十七歲為訓詁師

康熙十九年庚申八月十一日年二十九歲為漢字筆者

康熙二十二年癸亥閏六月初七日年三十二歲奉 使為謝恩存留通事十一

月二十四日隨王舅毛國珍池城親方安憲紫金大夫王明佐國場親方同

天使船一齊那霸港開洋十二月初五日到五虎門俟 天使船至而三個船

一直到新港下船安插柔遠驛次年球船歸國王舅等官赴京後聞人五六人

到各衙門用銀謀為館夫應祥聞之思館夫多則大不便故授呈於督撫兩院

與布政司衙門懇乞不許額外投充於是准其呈立鉄案杜鑽謀及毛國珍回

聞應祥以聞前事於是國珍吩咐新存留蔡炳喜友名親雲上載其呈子存留

案是時蒙 欽賜緞子一疋白綢一疋青布四端二十四年六月二十二日五

虎門開洋七月初一日飄至太平山初五日被地開船初十日入那霸港

康熙二十四年乙丑八月二十九日年三十四歲再為漢字筆者

康熙二十五年丙寅二月初五日年三十五歲奉 使為進貢赴京都通事十一

月十四日隨耳目官向應伯本姓魏氏越來親雲上朝盛正議大夫曾襲砂邊親

雲上帶官生梁成楨等那霸開洋到馬齒山候風十七日彼地開洋舟行未遠

忽見天色濛濛浪大起此時不得返棹于馬齒山又難到古米山進退兩難次

十八日辰時在古米山之南風浪益大天昏地黑正危岌之際忽有一陳狂風

來颳倒大桅打死官生鄭秉均因此舟中員役驚慌無地把布席假造蓬帆隨

風漂蕩上下員役号天呼地性命之存亡正懸於頃刻之間幸哀聲聞於玄穹

痛哭感于上帝風浪漸靜十九日飄至麻古山得全性命次年丁卯遣使中山

取桅幹召木匠來修船栽桅將直駕于閩時風汎已過故本年四月二十四日

彼地開洋五月初四日入那霸港候汎至九月十四日再開船十月初一日到

福州次年五月二十五日福州啓行九月十七日到京次日上表二十四日納

貢物十月初四日領 欽賜 國王及貢使各色綢緞如例初五日賜下馬宴

初六日賜上馬宴十三日京師起身正月初九日到浦城臬十三日黎明密帶

宰領泊村比嘉筑登之親雲上久米村崎山筑登之一人至鉄場地方黃栢山

黃栢山在浦城臬西南九十里使彼一人学作毛辺紙法十七日彼地起身至延平府

綏趕着耳目官大夫船二十二日到福州五月二十日歸國

康熙二十八年己巳十一月初一日年三十八歲拜授長史司隨職俸祿高二千斛在任

凡四年

康熙三十年辛未閏七月二十九日奉 命率領吳氏川上筑登之先清督雕御

筆遍額此額是康熙二十二年冊封時所賜中山世土之遍額也先是造牌榜而字寫紙上貼之故今壽之

于板自本年十月二十日起上至次年五月間告成

康熙三十五年丙子九月二十八日年四十五歲再授長史司蒙賜役知高二十

石併中議大夫本俸五石前比為長史者因賜役知而不給本俸今賜本俸併役知者自此始也

康熙四十一年壬午二月初一日年五十一歲奉 使為進貢正議大夫十一月

十四日同耳目官毛興龍古波津親雲上安之在那霸開洋本月二十四日到福州次年六月初九日福州起身九月初七日到京次日上表十月初一日納貢物初六日領

勅書併欽賜 國王及耳目官等伴各色綢緞布疋如例本日賜下馬宴上馬宴於礼部衙門十一月十一日在京起身正月十三日到福州七月初十日五虎門開船本月二十日歸國

采地

康熙二十九年庚午八月初五日年三十九歲拜授具志川間切大田地頭職

寵榮

康熙三十二年癸酉二月初七日 國王喜御額告成賜直上布疋疋十一月二

十七日 世孫自薩州榮施賜百田紙一束扇二握

康熙三十七年戊寅二月初六日 世子喜姪文溥獻画殿中

賜宴

康熙三十八年己卯二月二十五日 國王喜唐榮繁生在南殿賜宴

康熙四十一年壬午冬將出使時 世子遣使賜金扇二匣百田紙一束水足袋

一疋烟十結佳蘓魚一連

婚嫁

康熙三十二年癸酉十月二十一日四男績年十五歲娶那霸馮氏具志筑登之

清尊女眞牛金

十一世諱瀛高良秀才

童名加眞戸字有登行一康熙九年庚戌八月十四日午時生二十八年己巳

三月二十二日巳時不祿無嗣享年二十歲本日葬于南京墓

父應祥

母梁氏

官爵

康熙二十一年壬戌五月初七日年十三歲為若秀才

康熙二十四年乙丑八月二十三日年十六歲冠而作秀才

十一世諱泓大田秀才

童名五良羨字有秋行二康熙十四年乙卯正月初二日亥時生三十年辛未三月朔日不祿無嗣享年十七歲葬於那理古普之墓

父應祥

母梁氏

官爵

康熙二十七年戊辰八月十三日年十四歲為若秀才

康熙二十八年己巳八月十四日年十五歲冠而作秀才

十一世諱績大田通事親雲上

童名松字咸熙行四康熙十八年己未三月十四日巳酉日丑時生康熙

四十八年己丑六月卒享年三十一歲

父應祥

母梁氏

室馮氏眞牛金諱石貞字正固康熙十九年庚申四月初五日卯時生雍正十年壬子十月二十七日子時死享年五十三本日葬富路之津部墓坐已向亥此墓是外先祖小谷字所伝也

長男元龍

二男元鳳

三男元麟

官爵

康熙三十一年壬申八月二十日年十四歲為若秀才

康熙三十二年癸酉二月十九日年十五歲冠而作秀才

康熙四十一年壬午十二月初一日年二十四歲為筑登之座敷陞通事

康熙四十四年乙酉二月初八日年二十七歲頂戴黃冠

勲庸

康熙四十四年乙酉二月初八日為訓誥師

康熙四十五年丙戌遣耳目官馬氏宮平親雲上良康正議大夫程順則古波蔵

親雲上進貢時八月二十二日呈請隨存留通事蔡文漢高良通事親雲上赴

閩讀書習礼法司准之本年十一月二十三日在那霸開船赴閩至四十八年己丑六月歸國時遭大風至葉壁山洋面衝礁破船死於海中無尸骸

婚嫁

康熙五十四年乙未六月二十六日長男元龍十六歲娶正議大夫阮璋雙牛宮

城親雲上女子思戶金

康熙五十九年庚子八月二十五日二男元鳳年十八歲娶都通事陳以栢幸喜

親雲上長女眞伊奴金

十二世諱元龍大田里主

童名龜千代字君雲行一因父早世繼祖後康熙三十九年庚辰十月十一日

寅時生康熙六十一年壬寅十一月三十日卒享年二十三歲因無嗣子伝家

於二弟元鳳

父績

母馮氏

室阮氏思戶金諱守默字韜光康熙三十七年戊寅九月初九日申時生乾隆三

十九年甲午十一月十六日卒享年七十七歲葬富路之津部墓

長女眞吳勢康熙五十八年己亥十二月二十三日生乾隆五十一年丙午八月

朔日卒享年六十八歲葬富路之津部墓

二女眞牛康熙六十一年壬寅九月初七日寅時生乾隆四十八年癸卯八月二

十五日卒享年六十二歲葬富路之津部墓

官爵

康熙四十九年庚寅二月十四日年十一歲為若秀才

康熙五十三年甲午二月十七日年十五歲冠而作秀才

康熙五十九年庚子八月十三日年二十一歲褒嘉 冊封時在墨当写字有功

勞特陞通事

康熙六十一年壬寅十月二十七日年二十三歲拜若里之子

勲庸

康熙六十年辛丑十二月十五日年二十二歲与宜野座通事蔡用佐仲井眞秀

才鄭師崇共為官生六十一年壬寅冬領主從賦銀米併入監使用銀兩方物

帶跟伴一名于十一月十日隨貢使耳目官毛弘健具志川親雲上盛富正議

大夫陳其湘松堂親雲上在那霸開船到馬齒山候風本月十六日彼地開駕到古米山候風二十六日彼地開洋三十日到福寧州橫山洋面衝礁破船進貢表文方物及上下員役共一百二十人俱沈沒無存

婚嫁

乾隆元年丙辰六月十六日長女眞吳勢年十八歲嫁都通事阮為標天久里之

子親雲上長男阮民協

乾隆二年丁巳十一月初四日二女眞牛年十六歲嫁秀才楊大茂二男文煥名

嘉地秀才

采地

康熙五十一年壬辰三月二十九日年十三歲繼祖後拜授具志川間切大田地

頭職

寵榮

康熙六十一年十一月三十日大船覆沒時小船員役雖見之不能撈救一直到

閩省詳報督撫兩院兩院具題啓奏

皇帝憐憫遠臣勅部行文福建督撫兩院令布政司備祭品致祭於海岸於是

布政司奉憲令折于雍正元年五月二十日在水部門外新橋頭貢船灣泊之

所賜諭祭祭文一道左記

皇帝諭祭琉球國貢使耳目官毛弘健正議大夫陳其湘都通事蔡坦通事鄭元

良使者毛思聖楊世昌通事楊大成官生蔡用佐蔡元龍鄭師崇之靈曰德被

寰区異域識尊親之戴恩罩遠使儀文兼存歿之榮慰此愴忱用昭矜恤惟琉

球國貢使毛弘健等僻居薄海來享中朝遠道忽際夫狂瀾陪臣遂淪於巨浸

嘉爾王之有禮憫將命之何辜特沛殊恩奠以性醴嗚呼仁同覆載不遺膏溺

之臣沢及幽遐聿示同風之化靈如不昧尚克歆承

雍正元年癸卯六月小船官員回國將大船覆沒事啓奏 國王矜憫溺死上下

員役命法司令御物奉行備并祭品折于本年七月十二日遣僧致祭於天久

浜

十二世諱元鳳

童名百歲字君儀行二因兄無嗣子繼其後康熙四十二年癸未八月十七日

寅時生 乾隆七年壬戌五月二十四日未時在福建柔遠驛病故享年四十歲官終於都通事次日葬下渡

坑山

父績

母馮氏

室陳氏眞伊奴金諱閻範字助賢康熙四十二年癸未十一月二十四日子時生

乾隆二十九年甲申六月二十日卒享年六十二歲次日葬富路之津部臺

長女吳勢雍正二年甲辰九月十七日午時生乾隆五十八年癸丑十二月朔日卒享年七十歲

歲

長男佩蘭

官爵

康熙五十三年甲午二月十七日年十二歲為若秀才

康熙五十六年丁酉八月六日年十五歲冠而作秀才

雍正五年丁未六月十九日年二十五歲為里之子陞通事

雍正九年辛亥六月十五日年二十九歲賜黃冠

乾隆四年己未正月十六日年三十七歲為當座敷陸都通事

勲庸

乾隆三年戊午五月十六日年三十六歲為漢字御右筆相付在役十個月

乾隆四年己未正月十六日年三十七歲為講解師

乾隆五年庚申二月二十四日年三十八歲為謝恩進貢存留通事隨紫巾官佐

久真親方翁鴻業正議大夫具志親雲上蔡其棟同六年辛酉正月十八日那

霸開船二十五日到閩二月初三日称盤併安挿初八日咨文繳送布政使司

二十日參見各官七月十八日蒙賜 宴筵其外公務全竣至于次年五月病

故蒙 賞綠緞二疋裏一疋素絹一疋毛青布六端跟伴各蒙 賞毛青布六

端

采地

雍正元年癸卯九月初三日年二十一歲繼兄元龍後拜授具志川間切大田地

頭職

龍采

乾隆五年庚申十月十二日賜 御茶飯

婚嫁

乾隆三年戊午九月二十一日長女吳勢年十五歲嫁正議大夫阮璋卒宮城親

雲上次男駿

乾隆十二年丁卯八月初十日長男佩蘭娶梅氏田名親雲上孫滿二女思戶

封阡券文

立売山契林君榮君煌今有祖山一所坐產張坑地方內揆出吉地一穴計橫

潤一丈八尺直深三丈上至蔡家墓下至玲左琉球墓右至陳家界直四至界

限丈數俱載明白憑中売与

琉球國蔡処三面言議本日得訖價銀五兩錢天平其銀即日收足其地听從

蔡家擇吉安葬造墳本山界內並無古塚灰骸此地係自己物業与別房叔伯

兄弟侄無干亦未曾重張典当他人物業如有此情係榮之事今欲有憑立売

山契一紙為照

乾隆七年壬戌五月吉日立売山契人林君榮林君煌代書王臣和在見陳祖升每人

有花押

十二世諱元麟大田秀才

董名塩樽字君瑞行三康熙四十五年丙戌七月二十四日午時生雍正七年

己酉二月二十日在太平山病故享年二十四歲

父績

母馮氏

官爵

康熙五十六年丁酉八月初六日年十二歲為若秀才

康熙六十年辛丑二月朔日年十六歲冠而作秀才

勲庸

雍正元年癸卯遣王舅翁氏伊舍堂親方盛傳正議大夫曾曆砂邊親雲上慶賀

時八月二十六日元麟年十八歲呈請隨首曆赴閩誦書習礼法司准之本年

十一月二十一日在那霸開船到馬齒山候風十二月初一日開駕本月初九

日到閩留在六年雍正六年戊申八月二十日五虎門開洋九月初一日漂至

太平山

十三世諱佩蘭

童名龜壽字馨聞号葉亭雍正六年戊申八月初五日午時生乾隆二十二年

丁丑十月十六日子時死享年三十歲次日葬富路之津部墓

父元鳳

母陳氏

室梅氏思戶雍正七年己酉九月十四日生嘉慶三年戊午三月初八日卒享年

七十歲葬富路之津部墓

長男邦錦

次男邦寶別有家譜

官爵

乾隆四年己未三月二十五日年十二歲為若秀才

乾隆七年壬戌二月初九日年十五歲冠而作秀才

乾隆十六年辛未八月二十八日因 穆王嗣位之大慶為若里主陞通事時年

二十四歲

乾隆二十一年丙子十二月初一日頂戴黃冠時年二十九歲

乾隆二十二年丁丑四月十二日年三十歲因 冊封之時有功勞特陞過達理

位

勲庸

乾隆二十一年丙子閏九月初六日因 天使臨國奉 命為書簡司掌務筆帖

俗呼墨当本役

采地

乾隆七年壬戌十二月十五日年十五歲承重拜授具志川間切大田地頭職

婚嫁

長男邦錦娶魏猷芝牧志親方長女真滿

再娶沙因亮新垣親雲上三女真牛

三娶鄭得功屋宜親雲上一女真伊奴

二男邦寶娶召氏與座子家寶二女真加戶

十四世諱邦錦

童名思百歲字日章号温亭行一乾隆十五年庚午二月初四日生嘉慶十九

年甲戌九月二十二日申時卒壽六十五歲曾致仕之時伝家於長孫上書葬

富路之津部墓

父佩蘭

母梅氏

室魏氏真滿乾隆十五年庚午五月二十日生

長男良弼

繼室沙氏真牛乾隆三十四年己丑二月二十日生

長女真蒲戶乾隆五十四年己酉三月二日生

三室鄭氏真伊奴乾隆二十八年癸未七月二十日生

二男良佑

官爵

乾隆二十五年庚辰二月初日年十一歲為若秀才

乾隆二十九年甲申二月初三日年十五歲冠而為秀才

乾隆三十九年甲午十二月朔日年二十五歲為若里之子陞通事

乾隆四十七年壬寅十二月初一日年三十三歲頂戴黃冠

乾隆六十年乙卯十月六日陞過達理座

嘉慶二年丁巳十二月十二日年四十八歲陞座敷

嘉慶五年庚申七月二十六日年五十一歲陞中議大夫

嘉慶九年甲子二月二十七日年五十五歲陞正議大夫

嘉慶九年甲子九月十五日年五十五歲陞申口座

嘉慶十三年戊辰八月初二日年五十九歲因行 冊封大慶陞紫金大夫賜知行高二十斛

勲庸

勲庸

乾隆三十八年癸巳十一月十六日年二十四歲呈請隨接貢總管毛致知吉川

里之子親雲上赴閩讀書習礼法司准之翌年四月初四日從那霸津開船坐

駕同日申刻到馬齒山直候風同八日放洋同四十七年壬寅跟存留通事陳

宏毅仲本通事親雲上二月二十四日歸國

乾隆六十年乙卯十月六日因尚恪大宜味王子朝規赴江府奉 命為樂師嘉

慶元年丙辰七月十五日那霸川開船十八日駕到山川二十二日運到慶府

諸凡公務照例舉行九月初一日慶府起程十一月二十五日到于江戶其後

隨奉

御医玄澤老伝称 太守諭旨從琉球樂師蔡邦錦精学中華正音等因遵即兼
本職每日自午至酉在副使館精分其平上去入之音教授且因兼弁公方御
師柴山彦助並中將及

太守等例外公用至其賞賜物件亦叨蒙例外加增榮光綿身感激無涯既而十
二月三十日江戸起程丁巳三月初二日回到慶府公務全竣十八日随正副
使上船三十日前浜起錨運到山川四月初一日山川開船初六日帰国随在
日本時所作詩文左記

謹煩片尺転謝

栗山柴老先生大人前蒙栗山柴先生將軍御師匠也

高誼不啻戴德矣詎意今日厚頒珠璣綴句睿藻龍蛇含勢親字及妙筆入神
錦画御用玦宝金墨以光 寵錢僕不特感激無地心敬藏于豹囊回国永輝
家門矣懇乞

海門赤崎老先生代僕謝之謝之

稽首

呈小啓

海門赤崎老夫子閣下嘗上

貴国得蒸

清輝無叨

厚愛感刻私衷今因波濤隔阻莫能時候興居正仰慕間雲翰飛下盥誦津津

宛瞻

尊顏伏知

老夫子常講虞廷之命学彌深道彌崇当与日月而争耀既新周典之修勲愈積

德愈懋心同恭岱而並高茲又恭惟

栗山柴老先生大人

珪璋偉器

瑚璉英資学契先賢

經筵常益

君德文超前輩教法原叢国光不啻 重

江疆抑且名伝球島如僕天末庸遇異邦弱質首逢上

洛之便得接

高範今在旋旗之後欲伺

清安奈以汪洋杳阻徒陪屋梁明月茲奉謝帖暨寄

老夫子

玉翰焚香捧誦深感

風教真文章翁為礼樂祖牙籤三万軸之儲尽收双睨

扶桑六十州之選独拔衆英馳駿業於万里奮鵬搏于九霄誠知精白一心

聖主投

賢臣之魚水忽得

寵光兩緘拙生切

美人之仰思伏希

老夫子煩為轉達此意肅展寸衷遥候

浩社特此

奉瀆不勝恐惶

觀富士山

久聽扶桑富士尊總瞻神秀即崑崙瑞光封雪開霄漢体勢超塵映海瞰八郡
縈迴烟欲散孤巔岩崩常翻垂鞭一带寒郊路輕曳晚雲片片屯

二

半出雲頭擊碧空八方瓊面一様豐祥氳己覺蒸邦運秀色偏饒逼月宮影撼
仁風千嶂外靈驅文物四浜中小儒欣歷宋華境回首崔嵬氣象雄

嘉慶四年己未十月十五日蒙 王命為 冊封評價主取随蒙令且預調備勿

致臨期周章等因于是奉行及主取等商議日查往例為其預備庚申五月

封船來国即開評價館于親見世諸凡事務奉行及同僚等相共酌議時 請

候冠船御物奉行之裁示確定中華本地之各価故華人所開物価雖其昂貴

然善与華人熟議令以单価至其利息向例行加六今次議行加二華人大不

肯服即与正使趙大人相公細加商議遂達 勅使故蒙准行加二以全其事

益国及数千兩評価一案如前所陳預与華人商議善為措処故其評價得以

全竣無致煩難

嘉慶五年庚申二月初日恭奉 王命為進貢北京都通事同年十月二十日隨耳目官向必顯伊計親雲上正議大夫阮翼浦崎親雲上那霸開船同日酉時到馬齒山候風二十五日彼地放洋十一月初三日到福州次年二月初二日福州起程四月初日到京次日進表奉納貢物又拜領 欽賜王上勅書及各色物件亦叨蒙正副兩使及官伴人等各色物件併賜宴二次五月在京起身八月回到福州同七年壬戌五月二十一日在五虎門開船二十六日到馬齒山候風二十七日歸國復命

嘉慶八年癸亥七月十七日拜授長史司賜役知高二十斛

嘉慶九年甲子二月二十七日恭奉 王命充為報喪大夫次年正月二十六日在那霸津開船本日到馬齒山候風二月十二日彼所放洋十七日到閩三日安插館驛厥年八月朔日公務全竣離驛登舟九月十四日到館頭守候兵船已久並無遣發為此兩船員役等屢次稟請早發哨船護送回國奉 總督批目下海賊蜂起且南風亦少宜等來春回國可也等因奉此遵翌年丙寅四月二十二日到壺江候風本月二十七日因哨船來在五虎門開船五月初二日歸國復命

嘉慶十二年丁卯二月初日恭奉 王命充為接封正議大夫駕接貢船九月二十三日霸江開船同日到馬齒山候風二十五日見有順風彼所放洋十月初二日漂到海壇之觀音澳口若此地遲滯則恐欠候迎接 欽差之禮因呈請地方官早從陸赴館隨蒙 恩准十月十一日率帶跟伴十二人上岸起程同十五日安頓館驛何擬同二十五夜本船在鐘門洋面擊碎人口淹斃貨物漂沒幸所存三十人名十一月十五日到館安插至四月十一日叨奉 布政司牌令同十二日進到水口迎接 欽差兩位大人五月初二日隨同兩位大人離驛登舟同十一日在五虎門一齊開船同十七日連鯨歸國此時在閩所行公務左記

懇求借給公銀事

具稟琉球國接 封大夫蔡邦錦等為格外 天恩求救難夷性命事切錦等船隻遭風擊碎寸板無存一切俱無慘不可言王府銀子五千兩南山西山銀子二萬兩土產鮑魚參魚翅海菜等物可以壳銀子六七萬兩通船共計銀

子將近十萬兩俱已沈沒禍此錦等銀子全無就是貧苦餓死而無恐而且國王銀子若無不能買國用一點緊要之物來年

欽差前去啟國

封典一點俱無所用矣啟國法度錦等四十二人性命斷難再生淹死者上好活之者必至正法百計驚愁絕無生路惟有冒死哀懇

大憲大人格外超生下念啟國遭難死至六十餘人之慘恩賜例外賞恤例外借給或死者援照奉公淹斃之例格外賞恤或生者施賑災救命之仁借給銀兩來年繳還不負欠其可以買得來年

冊封併國主要用一點物件回國錦等四十二人可以有一半不死矣哀 感激切

稟

嘉慶十二年十一月 日具稟

福州府分守南臺海防序張 單仰本役即着土通事鄭煥等刻即飛帶接

封大夫蔡邦錦接 貢使者毛維幹存留通事鄭克新各正身赴府立等諭話去

役火介速火速

嘉慶十二年十一月 日

此次遭風難夷淹斃六十餘名情殊憫惻即現在獲生夷人銀物俱遭沈失亦屬可矜其心作何從優賞卹及有無借給銀兩之例案仰福防序查案妥議詳奪

嘉慶十二年十一月十八日此單自布政司給

海防序面諭代為轉求

督撫藩憲可以借得王府銀子五十兩買備藥材回國以濟通國之用不可談

及

欽差冊封要用之事即刻先做稟稿一張送來

老爺看遇

嘉慶十二年十一月十九日此單自海防給

拋稟南山西山帶銀二萬兩來閩置貨物該南北兩處所帶銀兩是否官員

所寄抑係夷民寄帶該國歷次進接

貢船到閩並無國王咨文無憑查考想係乘船隻赴閩私自寄帶即國王亦不知

有此項所買何物今遭風沈沒

天災所致人力難施各聽

天命

天朝不能代為料理爾大夫夷官等必曉諭各夷人不得混澆訊取供詞送候察核

拋稟帶來土產海參海菜等物可以壳銀六七万兩等話此處爾官員夷人係
接

冊封

天使來閩並非貿易且拋報貨物未經登岸即被風冲礁沈失亦無實數如何混開

六七万兩殊屬捏飾況連次遭風難夷案內從來稟呈令忽開報

天朝於加意撫恤之外斷不能為爾夷民籌及貿易預料遭風失事之計着訊諭夷

民人等各聽

天命母得多瀆取供送核

拋稟國王帶銀五千兩為來年

欽差前往

冊封備弁國用等話究竟備買何物逐一供明開單呈閱上屆

嘉慶五年

冊封是否該國王帶銀來閩採買物件有無心賑開送察核如果該國必需之物訊

供切寔以便捃情代為詳請轉奏

大皇帝酌予借給以心國用

具稟伝訊琉球國引礼通事鄭焯邦麟為稟覆事遵奉

鈞諭備細訊諭夷官務將現在一切情形切實供覆茲拋該接封正議大夫蔡邦

錦等供稱敵國僻處海隅毫無出產所有國用一切物件及藥材等項概係全賴

天朝蔭庇每年准予進接 貢船隨帶銀兩土產來閩開館貿易兌換回國歷久遵

行在案此番接

封接 貢來閩船隻遭風擊碎所有王府銀五千兩並南山北山三十六島便帶

銀二万兩俱已沈沒係屬 天數錦等何敢怨尤但來年

冊封大典

大皇帝詔勅到國必備 龍旗 御扇各儀伏敬奉

天朝體制并一切地毯燈綵磁器盤碗全國主王妃心着蟒錦各色細緞必須內地

買備敵國僻島無處購買再小邦地暖人多疾病藥材万難少欠緣因窮國倚

賴年 來閩兼之無力不能多買隔年之蓄如今年欠買則絕來年之用通國

夷命所關錦等自思白手空回定遭國法是以哀懇

大憲超生非敢越例上瀆並死他人唆使泣叩

大老爺慈恩寬宥並懇詳請借給國主備弁物件銀五千兩賜錦等樽節買備回
國以資國用藉保蟻命至進

貢頭号船錦等業經吊回進館俟來春遣發內有存回存留通事一員王秉行跟

伴五名改撥來年

冊封二号船內一空遣回弁理一切事務合併稟明等供焯等合就拋供稟覆伏乞

大老爺察奪切稟

嘉慶十二年十一月 日具稟伝訊琉球國引礼通事

具稟琉球國接 封正議大夫蔡邦錦等為叩懇全恩詳請先借定織事切錦

接

貢船隻來閩遭風漂收海壇錦因投遞接

封公文使者毛維幹因定織蟒錦誠恐遲延是以先行由陸來省詎船隻復又遭

風擊碎一切銀兩全無情急冒懇

天恩借給王府銀子五千兩荷蒙

恩准轉詳奉

大撫憲題

奏在案錦等自心遵候給發緣閩省一切蟒錦長濶尺寸未合國主所用向係現

銀僱人前往蘇州定織此時若再挨延計期必難織製不已哀懇

大老爺大人 恩全始終准賜詳請先行給發俾得趕緊往定以資國用感激無涯切

稟

嘉慶十二年十二月 日具稟琉球國接 封正議大夫蔡邦錦

奏為損賞琉球船隻遭風沈失該國王世孫銀兩以広

皇仁仰祈

聖鑒事切照琉球國接

貢船隻在洋遭風漂至海壇之觀音澳口不候兵船迎護龍力即自行開駕在鐘門

洋面擊碎淹斃人口經臣等派委大員馳往撈救從厚撫恤并将接護遲延及

欄阻不力之地方文武拋寔恭

奏在案嗣拋委員候補道馮馨督同平潭厅營將撈獲箱匣五十九件并撈救得生之夷人三十名護送來省同先由觀音澳攜帶物件二十余拾赴岸到省之夷官等十二人一体安插館驛宣布

皇恩賞給口粮衣履等項俾無失所茲拋夷官蔡^{邦錦}等稟稱此次船隻遭風擊碎仰蒙憫念難夷厚加賞恤生死均感船內所載土產鮑魚海參等物及南山北山各島附搭置買貨物銀二万兩均已漂沒無存惟內有本國王世孫發銀五千兩置弁迎接

冊封天使備用各物今一併沈沒不能買備回國恐有獲咎懇求酌量借給俾得買備物件等情^臣等因備弁

冊封天使應用何物未拋明白声叙隨飭藩司景敏督同海防同知張采五伝到該夷官当面訊拋供向來該國夷船來閩俱有隨帶土產乘便貿易並南山北山各島附搭銀兩置買貨物此次船內銀兩漂沒無存寔係夷人等貧趁一時順風率行開駕以致猝遇風災已蒙多方撈救并 奏請

大皇帝厚賞口粮等項又請 賞給雇船之資如体恤遠人無微不至皆

天朝格外恩施夷人等不勝感戴至本國王世孫發銀五千兩係因冊封天使到國心備

龍旗 御扇各儀伏敬奉

天朝又國王王妃跪迎

詔勅心製蟒綢緞各衣料及一切地毡灯綵磁器盤碗并預備藥材等物本國均无出產必須由內地購買今此項銀兩沈失无從置弁恐致貽悞獲咎是以夷人等呈懇借給銀五千兩以資購備回國俟下次進 貢船隻來閩再請本國王措還並無別意只求軫懇如數借給就沾恩了等語^臣等查向來琉球夷船遭風漂沒銀兩除分別撫恤之外從无借給銀兩之例嘉慶八年該國二號貢船在臺灣遭風漂失銀二万兩十一年該國二號

貢船在澎湖冲礁沈失銀二万五千兩均無賞借此次船隻擊碎該夷人附帶南山銀兩貨物沈失已照向例加倍撫恤毋庸另議外惟該國王世孫因來年有

冊封使臣到國發交銀五千兩赴閩置弁物件自屬寔情且有闕敬奉

天朝儀注未便欠悞今銀兩在洋沈失自當敬体

皇仁代籌接濟臣等公同商酌擬將國王世孫所交銀五千兩照數損賞免其繳還

俾該夷官等得以置備回國仍俟奉到

諭旨臣等照會該國王世孫遵照以仰副

聖主懷柔遠人有加無已之至意再查該國

貢使業已進京尚有同來之官伴人等仍用原船先行回國業經給咨登舟因風未順尚未放洋茲拋該夷官等稟請暫行調回來春再令開駕等情臣等查現值冬令風吼愆期難以駕駛出洋自必俯如所請准其船隻調回官伴貨物搬進館驛仍自回館之日起支給口粮塩菜俟來春風順或隨接

封官伴一体附搭回國較為兩便理合一併奏

聞所有臣等酌籌弁理各緣由謹合詞恭摺具奏伏乞

皇上睿鑒訓示謹 奏

嘉慶十二年十二月朔日

具稟琉球國接 封正議大夫蔡^{邦錦}為非蒙先借仍悞公差情急再懇乞賜

恩全事切^錦等接

貢船隻遭風擊碎人口淹斃銀貨全无哀懇

天恩借給國主所發銀子五千兩買備來年

封典必用物件敬奉

天朝体制荷蒙

恩准詳

題^錦等感激再造銘心刻骨緣^錦等所借之銀委因往蘇定織蟒錦確計往回并

織製日子必須百有餘天方能無悞是以於本月十二日以叩懇全恩等事冒

請先行撥借未蒙

批示^錦等晝夜難安誠恐遲延挨出年外則趕弁不及^錦等仍難免悞公之咎矣

情急催懇哀乞

大人俯察已蒙准借再賜先行給發全^錦等不至仍悞公差感德于生世矣

切稟

嘉慶十二年十二月十七日

具稟琉球國接 封正議大夫蔡^{邦錦}為叩懇全恩詳請先借定織事切^錦等接

貢船隻來閩遭風漂收海壇^錦因投遞接

封公文使者毛^{維幹}因定織蟒錦誠恐遲延是以先行由陸來省詎船隻復又遭

風擊碎一切銀兩全無情急冒懇

天恩借給王府銀子五千兩荷蒙

恩准轉詳奉

大撫憲題

奏在案^錦等自心遵候給發緣閩省一切蟒錦長濶尺寸未合國主所用向係現

銀僱人前往蘇州定織此時若再揆延計期必難織制不已哀懇

大老爺大人

恩全終始准賜詳請先行給發俾得趕緊往定以資國用感激無涯

切稟

嘉慶十二年十二月 日具稟琉球接 封正議大夫蔡^{邦錦}

福州府分守南臺海防厅兼管水利關課長 為叩懇全恩等事拋琉球國接

封大夫蔡^{邦錦}等具稟船隻遭風擊碎銀兩全無借給王府銀子五千兩蒙

准詳題在案懇請先行給發俾得往蘇州定織蟒錦等情到府擬此查此次賞

借銀兩已蒙

督撫 憲具奏心俟奉到

諭旨再行籌款給領此時未便轉請此係歷來未有之曠典為此諭仰土通事即便

明白訊諭眾吏官遵照毋違此諭

嘉慶十二年十二月十五日

嘉慶十三年正月初七日承准 廷寄十二月十九日內閣奉

上諭阿 奏請損賞琉球船隻遭風沈失該國王世孫銀兩一摺該國王世孫因來

年有 冊封使臣到國發交吏官銀五千兩備弁迎接應用物件儀制收關今

因船隻在洋遭風此項銀兩漂失該吏官等呈懇借給以資購弁自心加之體

恤量予恩施所有該國沈失銀五千兩無庸該督等全數損賞着加恩賞給庫

銀二千五百兩其餘銀二千五百兩着該省督撫司道大員損資賞給均免其

繳還用示懷柔至意余着照所請行該部知照欽此等因

嘉慶十三年正月初八日

具甘結琉球國接 封正議大夫蔡^{邦錦}等今在

大人台下領得沈失銀兩奉

旨恩賞銀二千五百兩又各

憲損賞銀二千五百兩共成銀五千兩領回置買物件眼全彈兌面封看包封並

無剋扣情事合具甘結是寔

嘉慶十三年正月二十四日具甘結琉球國接 封正議大夫蔡^{邦錦}

福州府分守南臺海防厅兼管水利關課張 為欽奉

上諭事嘉慶十三年正月二十七日蒙

布政使司景 憲札嘉慶十三年正月初七日奉

巡撫部院張 憲案嘉慶十三年正月初七日承准

廷寄嘉慶十二年十二月十九日內閣奉

上諭阿 等奏請損賞琉球船隻遭風沈失該國王世孫銀兩一摺該國王世孫因

來年有 冊封使^臣到國發交吏官銀五千兩備弁迎接應用物件儀制收關

今因船隻在洋遭風此項銀兩漂失該吏官等呈懇借給以資購弁自心加之

體恤量予恩施所有該國沈失銀五千兩毋庸該督等全數損賞着加恩賞給

庫項銀二千五百兩其餘銀二千五百兩着該省督撫司道大員損資賞給均

免其繳還用示懷柔至意余着照所請

行該部知道欽此等因到本部院承准此合就行知備案行司立即欽遵轉行查

照弁理母違等因奉此又為前事本年正月二十一日奉

巡撫部院 批本司詳覆查向來琉球國遭風難番所需賞項均動司庫^{三三}存款

項下支銷今奉

旨賞給琉球國沈失銀二千五百兩心請體照歷弁例案在於嘉慶十二年存款

內動支給領其餘銀二千五百兩

兩院兩司六道刁作十股平捐每股捐銀二百五十兩先於司庫不報

部留支文職各衙門未支各年俸工款內暫行照數借支同

恩賞銀兩一併給發吏官承領一面移咨司道即日照數解司歸補清款等由奉

批本部院心捐銀二百五十兩即於正月分養廉銀內照數扣收給領至省城

司道亦可於養廉內即扣臺灣道已擬該司詳扣均可毋庸借款其餘各道心捐銀兩如詳暫行借款給領仍催各道等限於本月內即行解司歸款具報仍候

督部堂批示繳又奉

總督部堂阿 批如詳借支給領仰即分移司道即日照數捐解歸補淸款仍候

撫部院批示繳奉批除分別支給外合就勞知為此仰吏即便補具印領送司備案母違等因蒙此合就勞行為此諭仰吏官蔡邦錦等速即補具領狀呈繳赴府以憑轉送勿得延悞速此諭

嘉慶十三年二月初三日

計開

閩浙總督部堂阿林保

寧福道張志緒

福建巡撫部院張師誠

塩法道陳 觀

布政使司景 敏

延建邵道李華封

按察使司慶 保

汀漳龍道海 福

興泉永道正紹蘭

臺灣道清 華

懇求預選寬大新船事

具稟琉球國接封大夫蔡^{邦錦}等為照例預選寬大新船稟請親臨帶全勘定

以便該船艙補堅固聽候

天使乘汎開洋事切^等奉 王世孫命接

封來閩荷蒙

皇恩憲德格外施仁損賞銀兩^等拜領之下銘感不勝但本國恭迎

天使到國 封襲例由閩省選折呈請封定寬大海船二隻俱係夷梢引導駕駛歷

屆遵行在案緣查乾隆二十一年間 冊封選定船隻之後傳令夷梢前赴看

驗奈有一船久懶臨期莫能稟換至該船往返受險多次敵國主惶恐莫安此

番^等奉命接

封帶全熟諳海道夷梢來閩在國屢承 王世孫再三囑諭到閩先期帶全舵梢

前往各船上細加驗看選折新造寬大船身堅固堪以衝風敵浪方可稟請封

定等因此番^等到閩遵即帶全熟諳夷梢赴各船上遍行屢加驗看惟有金森美薛長發兩船合式船身新造堅固寬大堪以駕駛重洋其餘陳^{茂春}等各船俱不合式或歷年已久不堪遠涉波濤或船身短促每船不能裝運二百余人且製造異式夷梢不穩駕駛隨將預選兩船名字稟叩 福防厅在案前因未蒙稟傳隨驗誠恐臨期周章情急上稟

藩憲大人荷蒙親臨河于帶全^等隨隨感激無地本當靜候詳請

大憲大人親臨覆驗緣封舟開駕必須夏汛屆將臨且選定封舟之船必須船上添補器具以及艙修堅固尚需時日^等不揣冒昧瀝情稟叩

大憲大人仰體 封襲大典俯察遠涉重洋 恩准迅賜親臨勘定以便該船艙

補堅固乘汎得穩開洋遠人戴德靡涯切稟

右稟上

海防 福州府 閩臬 布政司 撫院

具稟琉球國接封大夫蔡^{邦錦}等為懇 恩賜詳請勘定預選封舟以便該

船艙補堅固聽候

天使乘汎開洋事本年正月二十八日蒙

大人車駕親臨各船驗看^等感激無地但封舟大典例應詳明

撫憲大人勘定之後該船必須添補器具艙修堅固尚需時日現今

天使將次來閩轉聘風汛屆期即可開駕是以^等先期帶全熟諳夷梢前赴各船

上遍行屢加驗看惟有金森美薛長發兩船合式船身新造寬大堅固堪以駕

駛重洋難逃洞鑿之中其餘陳^{茂春}等各船或歷年已久不堪衝風敵浪或船

身短小每船難以載運二百余人且製造異式夷梢不穩駕駛^等罪責攸關

不已聲明再懇

大人臺下仰體 封襲大典俯察遠涉重洋乞准選定金森美薛長發兩船詳請

撫憲大人親臨覆驗俾得該船艙補堅固乘汎得穩開洋遠人頂祝不朽切稟

再稟

布政司

具甘結琉球國接封正議大夫蔡^{邦錦}今在

大人臺下結得南臺河下有金森美薛長發兩号船隻俱無龍骨係是平底船身

寬大堅固堪以選為

冊封

欽差坐駕之用倘或臨期不堪以及在洋駕駛疎虞錦願甘坐罪合具甘結是寔

諭夷官蔡邦錦

署福州府閩臬正堂言 為遵禮詳覆事嘉慶十三年二月十九日蒙

前海防分府張 憲札嘉慶十三年二月十九日蒙

布政使司景 批本府会同該臬詳覆琉球國接封大夫蔡邦錦具呈南臺河

下停泊有金森美薛長發二船新造寬大堅固堪為

冊封

欽差坐駕呈請選封備用等情会同查明堪以穩涉等緣由奉批如詳准將金森美

薛長發兩船選封備用仰即飭着該船戶詳慎修理取具興工日期具報仍候

轉報 兩院憲查考繳等因蒙此除差着金森美薛長發兩船趕緊修取具

興工日期具報并將前選陳茂春等四船折封外合就行知為此行臬官吏即

便遵照母違等因蒙此合行飭知為此諭仰該夷官蔡邦錦即便知照母違特

諭

嘉慶十三年二月二十五日諭

懇求出示以減貨物事

具稟琉球國接 封正議大夫蔡邦錦為稟明夷情懇 恩出示諭知減貨物

以恤貧窮事切敝國蕞爾陬土遠居海隅夙蒙

天朝一視同仁之德進貢弗懈世世襲爵謹守藩職此誠天高地厚之洪恩也這番

錦臨行之時奉本國法官諭令奈因國運衰微貢船數遭漂沒且柔遠驛被

火焚燒所失公項甚屬過多今僅蓄得三萬兩銀內一萬兩以為頭号船評價

銀又一萬兩以為二号船評價銀仍照前例加二息銀共計二萬四千兩其余

六千兩以為備弁

封典應用物件此次接貢船隻到閩即稟叩

上憲請示約束等由奉此錦竊想敝國土瘠產乏貨若浮多銀則於少莫何拮

据無処措擲臨時誠恐隨封人等藉此滋事反累

欽差大人錦故以先行稟明免得臨時周章但乾隆二十一年

冊封隨封人等在國勒買不遂騷動不法及至歸省

天朝嚴行大法護封武員以及兵役數名被罪原為貨物以起禍端乃因敝國貧窮

竟累

天朝員名國主聞知深痛寢食不安又查康熙五十八年

冊封所帶貨物亦屬甚多因而稟明實力不能承買奈堅執不容實不得已勉力強

收臣民男女金銀銅簪及銅錫器皿等物算成銀兩方能買得四分之一其四

分之三依旧帶回伏乞

大人仰体

皇上柔遠至意俯察敝國瘠之苦情迅賜先發告示嚴行約束所有封船二隻庄載

貨物每船限以一萬兩之額俾得安頓兵役肅靜地方則奉國臣民感激即國

主亦感佩鴻慈於無既矣切稟

嘉慶十三年五月 日具稟琉球國接 封正議大夫蔡邦錦

右稟上

海防 布政司 撫院 欽差兩位

懇求酌減夫役事

具稟琉球國接 封正議大夫蔡邦錦為乞憐小國苦情恩准酌減夫役以恤

窮邦以肅安靜事切本國僻處彈丸出產無幾凡有

冊封大典必須蓄積數年賦稅方敢前來請

冊封大員必領行在案緣自 尚溫王嗣位未及七載即薨世子尚成五齡幼主嗣位三

年又逝兼以嘉慶七年進 貢兩船俱失頭号全船覆沒二号漂失臺灣寸板

無存至嘉慶九年柔遠驛被火焚燒貨物盡失似此歷歲連遭難免倉庫窮乏

奚敢遽行請

封但因國運衰新主必須請

封得叨

天朝洪福氣運更新所以拳國臣民盡行勉力急公於嘉慶十一年特遣錦前來接

梁邦錦請

封前來不料是冬二号船又漂失澎湖地方寸板無存至十二年特遣錦前來接

封船隻又漂至海壇地方失破船貨俱沒官伴水梢淹斃六十三人幸蒙

皇恩憲德捐賞銀兩感激不勝但查乾隆二十一年間

冊封所有隨封員弁兵役匠作船梢共計四百五十七員名至嘉慶五年

冊封所有隨封人數算至四百九十九員名之多但例撥隨封人數何敢辭供給之

繁奈敝國主請

封在前不意遇災兩次在後誠恐臨時拮据力不從心難免失禮之愆錦思

天使隨封員伴例有定數不敢請減而船上應用舵梢亦不可欠惟有夫役之中似

可邀減不揣冒昧瀝情稟叩

大人臺下仰体柔遠至意俯察窮國連遭 恩准体照前例酌減隨封夫役俾小

邦得以安靜拳國臣民御恩不朽切稟

嘉慶十三年五月 日具稟琉球國接 封正義大夫蔡邦錦

右稟上

海防 布政司 撫院 欽差兩位

懇求飭水口驛撥給人夫船隻糧食事

琉球國接 封正義大夫蔡邦錦為乞恤外夷人地生疎恩准飭駙撥給人夫

船隻糧食以便遵令往接 天使事切錦奉王世孫命來閩恭接

冊封天使例應遵候

大人仁憲 給批前往前途迎接但敝國自納款

天朝以來皆係由海而至從無旱路到閩是以歷次進 貢往京併各省遞送漂風

難夷到閩向蒙飭稟備弁人夫船隻口糧等項此番 船隻遭風漂收海壇地

方先行由早進館亦蒙照例弁心此皆深沐

皇恩憲德下恤外夷之至意也錦此番恭接

天使前往水口將次起行不已瀝情叩懇

大人老諭 恩准迅賜飭行前途駙站備船隻人夫糧食併賜給發護照俾外夷

得以穩往感激無涯切稟

右稟上

海防 布政司

嘉慶十二年丁卯十一月初四日奉 命 天使臨國之時授承心職俗呼御用簡

等役

嘉慶十三年戊辰八月二十日為署總理唐宋司加賜役知六十斛共計八十斛

嘉慶十五年庚午八月二十三日為總理唐宋司嘉慶十七年壬申九月初八月

致仕

嘉慶十五年庚午八月二十三日加賜知行高六十斛共計八十斛

采地

嘉慶九年甲子二月二十七日拜受羽地間切饒平名名島

嘉慶九年甲子九月七日拜授讀谷山間切渡具知村地頭職

嘉慶十六年辛未三月二十三日轉授小祿間切所屬安次嶺村地頭職

寵榮

乾隆六十年乙卯正月十八日恭奉 王命為樂師官蒙例賜緞一疋繡一疋色

紗綾二端又蒙 聖上遣使御近習官餞賜官香五把練蕉布一端

嘉慶元年丙辰十一月二十五日到江府蒙 公方賜點心美酒菓子濃茶等且

賜白銀五百六十七錢時服二領熨斗目一領

嘉慶五年庚申二月朔日為進貢事奉 命拜充北京都通事十一月初三日

福州次年四月朔日進入京城叨蒙 皇上賞賜綵緞五疋羅五疋絹三疋且

加賜帽子一頂袍子一領掛子一領衫一領石帶一鈎靴一雙襪子一雙

嘉慶九年甲子二月朔日為報喪事奉 命充為大夫赴閩之時蒙 主上遣使

御書院當官餞賜葉烟草六十把烟袋十五對白麻五束練蕉布三端又蒙

國母向氏佐敷按司加那志遣使餞賜烟草二十把白麻二束

嘉慶十年乙丑十一月十三日為報喪事赴閩之時叨蒙 主上從內院遣使御

近習官餞賜扇子一匣白麻二十帖嶋紬一端

嘉慶十二年丁卯二月朔日為接封事奉 命拜充大夫赴閩之時叨蒙 主上

遣使御書院當官餞賜葉烟草六十把烟袋十五對白麻五束練蕉布三端又

蒙 國母向氏佐敷按司加那志遣使餞賜葉烟草二十把白麻二束

嘉慶十二年丁卯八月十二日為接封事赴閩之時叨蒙 主上自御內證遣使

御近習官餞賜扇子一箱白麻二十习嶋紬一端

嘉慶十三年戊辰八月初二日陞紫金大夫叨蒙 主上遣使御書院當官賀賜

御花一飾御玉貫一雙又蒙 國母向氏佐敷按司加那志 王妃向氏野嵩

按司加那志各位遣使賀賜御花一飾御玉貫一雙

嘉慶十四年己巳八月二十二日恭蒙 聖主遣使下庫理當官賜 諭書曰

冊封之時凡事尽心善完一世一次之大典洵為歡忭由是於 皇上賞賜緞疋之內頒賜一緞也誠是家門榮光也

嘉慶十五年庚午八月二十三日因為總理唐榮司叨蒙 主上遣使御書院當

官賀賜御花一飾御玉貫一双又蒙 國母向氏佐敷按司加那志 王妃向氏野嵩按司加那志各位遣使賀賜御花一飾御玉貫一双

婚嫁

乾隆五十一年丙午三月十日長男良弼娶金良安次嶺里之子女思戶

再娶俞惠英玉那霸筑登之親雲上長女真牛

嘉慶二十二年丁丑十月二十一日二男良佑娶都通事王丕烈國場親雲上一

女真牛

長女真蒲戶嫁梁氏國吉里之子文贊長男友仁

十五世諱良弼

童名思龜字德培行一乾隆三十二年丁亥十二月初六日生嘉慶八年癸亥

八月初三日卒享年三十七歲葬富路之津部墓不嗣家統

父邦錦

母魏氏

室金氏思戶乾隆三十三年戊子十二月二十六日生

長女真吳勢乾隆五十二年丁未十月十七日生乾隆五十七年壬子八月二十

八日殤享年六歲葬富路之津部墓

二女真牛乾隆五十九年甲寅四月十五日生道光二十六年丙午十二月二十

六日酉時死享年五十三歲葬富路之津部墓

繼室俞氏真牛乾隆三十八年癸巳十一月初二日生道光二年壬午六月九日

卒享年五十歲葬富路之津部墓

長男上書

三女真加戶嘉慶五年庚申四月初七日生

官爵

乾隆四十三年戊戌八月朔日年十二歲為若秀才

乾隆四十六年辛丑八月十一日年十五歲冠而作秀才

乾隆五十七年壬子十二月朔日年二十六歲為若里之子陞通事

嘉慶元年丙辰十二月初一日年三十歲頂戴黃冠

嘉慶五年庚申七月二十六日年三十四歲陞邊達理座

勲庸

嘉慶元年丙辰十二月初一日奉 命為漏刻御番 賜俸米四石

嘉慶五年庚申閏四月為文組寄役

嘉慶五年庚申九月年三十四歲呈請隨進貢北京都通事家父邦錦赴閩讀書

習禮法司准之同年十月二十日那霸開船本日酉時到馬齒山候風二十五

日彼地放洋十一月初三日到閩同七年壬戌五月二十一日在五虎門開船

二十六日到馬齒山候風二十七日歸國

嘉慶八年癸亥四月初三日因讀谷山王子赴江戶奉 命為樂師 未赴薩州之時不幸病故

幸病故

寵榮

嘉慶六年辛酉四月隨進 貢北京都通事家父邦錦在京之時 皇上賞賜

緝三疋藍布八端且加賜帽子一頂袍子一領帶子一條

婚嫁

嘉慶二十三年戊寅十一月二十二日三女真加戶嫁中議大夫梁氏當問親雲

上光地四男維隋

十五世諱良祐

童名小樽金字依訓號誠亭行二嘉慶元年丙辰五月二十一日生因姪上書

無嗣子而卒嘉慶二十三年戊寅四月具稟譜司轉奏五月十二日恭蒙 聖

主准繼其後道光二十五年乙巳四月十二日辰時卒享年五十歲葬富路之

津部墓

父邦錦

母鄭氏

室王氏真牛嘉慶五年庚申十一月十五日生咸豐三年癸丑九月十五日辰時

卒享年五十四歲次日葬富路之津部墓

長男世功

長女真牛道光二年壬午二月十二日生

二男世德童名龜壽字永香道光四年甲申十二月三十日午時生因宗兄具志

秀才天龍無嗣子道光十八年戊戌九月八日請 命繼其後

三男世忠童名眞三良道光八年戊子二月二十三日卯時生十年庚寅五月十

九日殤享年三歲葬於富路之津部墓

二女眞鶴道光十年庚寅七月六日生

四男世棟

五男世鼎

三女眞嘉戸道光二十年庚子五月十七日生

六男世榮

官爵

嘉慶十二年丁卯二月初三日年十二歲為若秀才

嘉慶十五年庚午二月十三日年十五歲冠而為秀才

嘉慶二十三年戊寅十二月朔日年二十三歲為若里之子陞通事

道光四年甲申十二月一日年二十九歲頂戴黃冠

道光七年丁亥十二月一日年三十二歲陞遠達理座

道光十三年癸巳十二月朔日陞座敷

勲庸
道光五年乙酉三月年三十歲呈請隨接貢存留通事鄭良弼眞榮里親雲上赴

閩讀書習礼法司准之九月十二日從那霸津開船本月十七日到閩同六年

丙戌隨進貢北京都通事王丕烈國場親雲上為習凡事上京十月二十四日

由閩起程十二月二十三日到京次年丁亥四月十五日回到福州同年跟該

鄭良弼五月二十二日在五虎門開船閩五月朔日歸來本國

道光十四年甲午七月二十八日因國將請 封奉 憲令為考定諸事俗呼諸事

考方之中取預編備冊封行之案書丁酉年十月朔日任竣

道光十七年丁酉七月六日因國將有 冊封奉 命為把門官戊戌十二月任

竣
道光二十四年甲辰二月十六日為護往倭人事恭奉 王命充為進赴太平山

載運貢賊倭船通事率跟伴二名三月二十四日坐駕其船霸江開船二十八

日到太平山六月坐駕該船回鄉即於此日赴御書院復 命奉差緣由左記

案照奉法司憲牌奉監守大人鈞諭本司詳查客歲唎船到來太平八重

兩島數日淹留量地広狹某日回去等由奉鈞諭該唎船雖經駕回然於日後

或有再到該島接逢倭船難行之処宜心選唐宋人氏三名派駕倭船三隻為

其通事遣撥兩島使其并理可也等因遵即請命使爾充為進赴太平山倭船

通事遣撥該島務須仰体此意到島之後若逢唎船到來励尽心力凡事酌宜

妥為并理少無滋事弊可也若能尽照料之善使唎人無事回国宜察其功勞

酌授使役以示褒獎等因奉此在案

采地

嘉慶二十三年戊寅十二月十八日年二十三歲繼姪上書後拜授小祿間切安

次嶺村地頭職

俸祿

嘉慶二十三年戊寅十二月十八日年二十三歲繼姪上書後恩賜知行高三十

斛

龍采
道光六年丙戌十月二十四日隨進 貢北京都通事王丕烈國場親雲上在京

之時蒙 皇上賞賜綿綢三疋布八疋加賞皮帽一頂布皮袍一件布棉襖

一件布帶一條領衣一件布棉褲一條布襪一雙布靴一雙

婚嫁

道光十七年丁酉十一月十八日長男世功娶中議大夫鄭國寶宮城親雲上二

女眞蒲戸

二女眞鶴嫁金氏具志堅里之子親雲上白輝長男作霖

咸豐四年甲寅九月二十四日四男世棟娶副通事鄭常達宮城里之子親雲上

二女眞牛

咸豐八年戊午九月二十二日五男世鼎娶異姓都通事蔡超萃宇良里之子親

雲上二女眞鶴

光緒二年丙子五月二十二日六男世榮娶梁克達三男龜嶋里之子親雲上女

眞吳勢

十六世諱上書

童名思百歲字君舌号貴亭行一嘉慶二年丁巳六月初五日生因父早卒祖

父致仕之時蒙繼其後嘉慶二十三年戊寅二月十七日卒享年二十二歲因

無嗣子伝家於二男叔父良佑葬富路之津部墓

父良弼

母俞氏

官爵

嘉慶十三年戊辰二月初三日年十二歲為若秀才

嘉慶十六年辛未三月二十一日年十五歲冠而為若里之子陞通事

采地

嘉慶十七年壬申九月二十二日年十六歲繼祖後授小祿間切安次領地頭

職

俸祿

嘉慶十七年壬申九月二十二日年十六歲繼祖後恩賜知行高四十石

十六世諱世功

童名思百歲字永昌号 行一嘉慶二十四年己卯八月十八日丑時生同

治七年戊辰正月初二日卒享年五十歲葬富路之津部墓

父良佑

母王氏

室鄭氏眞蒲戸嘉慶二十四年己卯十一月二十七日生

長男德廣

一男德彰

長女眞牛道光二十七年丁未八月二日咸豐三年癸丑十一月二十三日酉時

殤享年七歲葬富路之津部墓

二女眞吳勢道光三十年庚戌六月二十六日午時生

官爵

道光十年庚寅八月六日為若秀才

道光十三年癸巳八月二十七日冠而為秀才

道光十八年戊戌十二月二十七日因冊封大典全竣之慶賀為若里之子陞通

事

道光二十七年丁未十二月朔日頂戴黃冠

道光三十年庚戌十二月朔日陞邊達理座

咸豐二年壬子十二月朔日陞座敷

同治三年甲子二月十八日陞中議大夫

勲庸

道光十七年丁酉九月十六日因國將有 冊封奉 憲令為把門官加勢通事

十八年戊戌十二月任竣

咸豐二年壬子六月朔日為西平等講解師隨職賜年俸米七石同六年丙辰五月二

十九日任竣

同治三年甲子二月十八日為國學講解師隨職賜年俸米八石四年乙丑十一月二

十八日因病辭職

采地

道光二十五年乙巳七月二十日拜授小祿間切安次領地頭職

俸祿

道光二十五年乙巳七月二十日繼父統賜知行高二十斛

婚嫁

咸豐六年丙辰十一月十一日長男德廣娶申口座鄭元觀古波藏親雲上五女

思戸

同治七年戊辰八月二十五日次男德彰娶異姓副通事蔡祚隆湖城里之子親

雲上長女眞牛

十六世諱世棟

童名樽金字永隆号 行四道光十三年癸巳十二月二十九日丑時生

父良佑

母王氏

室鄭氏眞牛道光十一年辛卯十月十五日辰時生

長女眞伊奴咸豐五年乙卯十二月初二日卯時生光緒二年丙子八月初九日

死享年二十二歲葬於富路之津部墓

二女思玉咸豐七年丁巳六月十四日卯時生

三女眞蒲戸咸豐十年庚申正月十一日未時生

長男文治童名小樽金同治四年乙丑五月初九日戌時生同月二十九日午時

天

一男文謨

官爵

道光二十四年甲辰八月十九日為若秀才

道光二十七年丁未八月二十五日冠而為秀才

咸豐九年己未十二月朔日為若里之子陞通事

同治三年甲子十二月初六日頂戴黃冠

同治八年己巳十二月二十二日陞邊達理座

同治九年庚午十二月朔日陞座敷

光緒三年丁丑二月九日四十五歲陞中議大夫

勲庸

同治四年乙丑八月二十五日因國將有 冊封奉 憲令為館務司加勢通事

同五年丙寅十月初八日因病辭職

同治八年己巳六月朔日奉 憲令為真和志平等講解師隨職賜年俸米七石

光緒三年丁丑二月九日四十五年歲拜授長史司賜役知高二十斛

十六世諱世鼎

童名眞蒲戸字永輔号 行五道光十六年丙申七月二十二日戌時生

父良佑

母王氏

室異姓蔡氏真鶴道光十八年戊戌三月十日生

長女眞牛咸豐十一年辛酉七月二十日戌時生同治元年壬戌九月初九日午

時殤享年二歲葬富路之津部墓

二女思龜同治五年丙寅十一月十四日丑時生

長男文元

二男文烈

三男文芳

四男文選

官爵

道光二十七年丁未二月十七日為若秀才

道光三十年庚戌二月十五日冠而為秀才

同治元年壬戌十二月朔日為若里之子陞通事

同治六年丁卯正月二十八日因冊封大典全竣之慶賀頂戴黃冠

同治十年辛未十二月朔日陞邊達理座

同治十一年壬申十二月朔日陞座敷

勲庸

同治五年丙寅十月初八日冊封之時奉 憲令為館務司加勢通事

同治十年辛未三月五日奉 憲令為南風之平等講解師隨職賜年俸米七石

十六世諱世榮

童名松金字 号 行六道光二十四年甲辰四月十二日丑時生

父良佑

母王氏

室梁氏真吳勢道光二十六年丙午五月初六日生光緒三年丁丑五月初日不

祿享年三十二歲葬富路之津部墓

長男成章童名小樽金同治五年丙寅正月十一日午時生同七年戊辰九月二

十二日天享年三歲葬富路之津部墓

長女眞鶴同治七年戊辰六月十二日申時生

二男成美

官爵

咸豐五年乙卯二月十八日為若秀才

咸豐八年戊午二月二十一日冠而為秀才

同治六年丁卯正月二十八日因冊封大典全竣之慶賀為若里之子陞通事

光緒元年乙亥十二月朔日頂戴黃冠

勲庸

同治五年丙寅九月二十日冊封之時奉 憲令為管債司加勢通事同十一月

任竣

十七世諱德廣

童名小樽金字 号 行一道光十九年己亥十月七日丑時生

父世功

母鄭氏

室鄭氏思戸道光十八年戊戌三月十九日生光緒三年丁丑七月七日不祿享年四十歲葬富路之津部墓

長男承祚

長女真蒲戸咸豐十年庚申九月十六日申時生

二女武樽金同治三年甲子正月十日亥時生

三女思龜同治五年丙寅十二月二十五日申時生同六年丁卯八月十六日夭

享年二歲葬於富路之津部墓

四女真吳勢同治七年戊辰八月三十日生

二男承祐

三男承慶

官爵

道光三十年庚戌二月十五日為若秀才

咸豐三年癸丑二月十五日冠而為秀才

同治元年壬戌十二月朔日為若里之子陞通事

同治六年丁卯正月二十八日因冊封大典全竣之慶賀頂戴黃冠

勲庸

同治四年乙丑八月二十五日因國將有冊封奉憲令為館務司加勢通事

同五年丙寅十一月任竣

同治九年庚午四月年三十二歲呈請隨二號船大通事魏懋德神山里之子親

雲上赴閩讀書習禮法司准之十月初八日那霸開船閏十月二十七日安插

館驛翌年六月二十六日歸國

采地

同治七年戊辰四月二十七日拜授小祿間切安次領地頭職

俸祿

同治七年戊辰四月二十七日繼父統賜知行高十五斛

十七世諱德彰

童名樽金字 号 行二道光二十四年甲辰九月二十七日丑時生

父世功

母鄭氏

室異姓蔡氏真牛道光二十四年甲辰十月二十七日生

長男有恒

長女真蒲戸同治十二年癸酉三月三日生

二男有常

官爵

咸豐五年乙卯八月二十三日為若秀才

咸豐八年戊午八月十九日冠而為秀才

同治六年丁卯正月二十八日因冊封大典全竣之慶賀為若里之子陞通事

同治六年丁卯十二月朔日頂戴黃冠

勲庸

同治四年乙丑八月二十五日因國將有冊封奉憲令為儀仗司加勢通事

同十一月任竣

同治六年丁卯十二月朔日奉命為漏刻御番役賜俸米四石

十七世諱文謨

童名思百歲字不顯号 行二同治八年己巳九月十五日亥時生

父世棟

母鄭氏

十七世諱文元

童名小樽金字德昌号 行一同治二年癸亥十月十三日亥時生

父世鼎

母異姓蔡氏

官爵

光緒三年丁丑八月三日年十五歲冠而為秀才

十七世諱文烈

童名樽金字德興号 行二同治八年己巳十一月十二日亥時生

父世鼎

母蔡氏

十七世諱文芳

童名思百歲字德厚号

行三同治十二年癸酉四月二十一日申時生

父世鼎

母蔡氏

十八世諱承慶

童名真三良字思敬号

行三同治十三年甲戌二月十一日亥時生

父德廣

母鄭氏

十七世諱文選

童名真三良字德秀号

行四光緒二年丙子三月初七日寅時生

父世鼎

母蔡氏

十八世諱有恒

童名思百歲字為基号

行一同治九年庚午正月二十四日巳時生

父德彰

母異姓蔡氏

十七世諱成美

童名思百歲字德厚号

行二同治十三年甲戌十月初日亥時生

父世榮

母梁氏

十八世諱有常

童名小樽金字為幹号

行二光緒二年丙子六月二日亥時生

父德彰

母蔡氏

十八世諱承祚

童名思百歲字 号

行一咸豐七年丁巳十一月初七日丑時生

父德廣

母鄭氏

十八世諱有章

童名松金字

号

行三明治十六年

午十二月十四日生

父德彰

母蔡氏

官爵

同治七年戊辰八月初五日年十二歲為若秀才

同治十年辛未八月十一日年十五歲冠而為秀才

十八世諱承祐

童名思武太字思恭号

行一(同) 治十年辛未四月二十六日巳時生

父德廣

母鄭氏